

新型コロナウイルス感染症

川口市立医療センター

検査科 **坂田 一美** (ひとみ)



新型コロナウイルス感染症の検査と感染予防についてお話しします。

検査は大きく2種類あります。ウイルスにかかっているかを調べる検査(遺伝子を調べるPCR検査やウイルス構成タンパク質を調べる抗原検査)と、ウイルスにかかったことがあるかを調べる抗体検査になります。前者は鼻咽頭拭い液や唾液などを用い、後者は血液を用います。ウイルスの有無を調べる検査は偽陰性や偽陽性がありますが、基本「陽性」は感染していることを意味します。一方、抗体検査は感染後数週を経て作られる抗体を見ているので、疫学調査に用いられます。日本の抗体保有率は欧米に比べて低いことが分かっています。

新型コロナウイルスは症状が出る前後が最も感染力が強く、また、症状がない場合でも感染させることが分かっています。すなわち診断がつく前にすでに人に感染させているおそれがあります。しかし検査は症状がある、あるいは濃厚接触が疑われたかたに実施されます。皆さんが日常生活の中で、感染者を認識することは不可能です。

感染症の最大の防御は人同士が接しないことです。しかしいつもでもそれを続けることは無理があります。従って一般的な感染防止対策(三密を避ける、外出時のマスク着用、手洗い、手指消毒、換気)を徹底していく事が重要であると肝に銘ずるべきです。

長引く咳は結核かも!?

～9月24日から30日は結核予防週間です～



1 結核ってどんな病気?

結核菌により主に肺に炎症が起こり、飛沫感染や空気感染をする病気です。結核菌の混ざったしぶきが、咳やくしゃみをする事で空气中に飛び散り、それを直接吸い込むことで感染します。

過去には日本人の死亡原因第1位だった結核ですが、現代は医療の向上により、きちんと薬を飲めば治る病気になりました。

2 川口市の患者数

川口市の2019年の新たな結核患者数は92人でした。中でも、20～65歳の働き盛りの世代が約半数、75歳以上が約3割を占めています。

3 結核を予防しましょう

規則正しい生活を送り、バランスの取れた食事や十分な休養・睡眠を取りましょう。健康的な生活が予防につながります。早期発見は重症化を防ぐだけでなく、家族や職場などへの感染を防ぐためにも重要です。症状がなくても毎年定期的に健診を受けましょう。

下記の症状が2週間以上続くときは、健診を待たずに早めに受診!



※高齢者の場合は症状が出ないこともあります。年に一度は胸部レントゲン検査を受けるようにしましょう。

問 疾病対策課 ☎048-423-6726 FAX048-423-8852

●40歳以上のかたは市の【肺がん・結核検診】が500円で受けられます。(7月～翌年2月) ※詳細は市ホームページをご覧ください。

問 地域保健センター ☎048-256-2022 FAX048-256-2023

ワンポイント手話講座

今月は「手話」と「通訳」を紹介します。①と②を組み合わせると「手話通訳」という意味になります。

① 手話

両手の人差し指を向い合わせ、半回転違いに回転させます。また、人差し指の代わりに、5本の指を伸ばし、回転させる表現方法もあります。



② 通訳

親指を立て、口の前で左右に2回動かします。この表現には、「案内」「紹介」といった意味も含まれます。



問 障害福祉課

☎048-259-7926

FAX048-259-7943



異国の地で得た経験

川口市立高等学校3年

伊藤 万莉さん (いとう まり)
下園 彩乃さん (しもぞの あやの)

平成30年4月、市立高校3校を統合して開校した川口市立高等学校。「未来を創るしなやかでたくましい人材の育成」を教育目標に掲げ、グローバル人材の育成にも力を入れている。その取り組みの一つである、アメリカ合衆国オハイオ州フィンドレー市への長期留学事業の第1期生が、この二人だ。

彼女達が期待と不安を胸に異国の地に飛び立ったのは昨年8月。まず、直面したのが言葉の壁であった。一定の英語力はあったものの、ネイティブとの会話は次元が違った。二人は突きつけられた現実を背を向けなかった。常に英会話が必要となる環境に自分を置こうと、誘われたイベント・行事には全て参加し、多くの人と積極的にコミュニケーションを図りました(下園さん)。

「恥ずかしがらずに、積極的に間違えていこう」という意識を持ち、発音の確認や疑問に思ったことは、些細なことでもネイティブの友人に聞くようにしました(伊藤さん)。「努力の結果、日に日に意思疎通がスムーズになり、脳内で日本語に変換しなくても会話ができるようになった。それぞれのスタイルでこの難局を乗り越えた二人は、さらに日本では得られない貴重なことを吸収して行った。「アメリカは多種多様な人々が混在しています。自分たちのような留学生も特別扱いしないので、自分の意見をきちんと主張していかなければなりません。それは個人を尊重しているからだと感じました。対等に接してくれたことで、自分も他者を尊重する意識がより強くなったことが一番良かった(治)」。他者を尊重する力そして「自身を客観視できる力」。二人の若者が異国の地で得た経験こそが、グローバル人材に求められている能力なのかもしれない。(治)



左から伊藤さん、下園さん